こんにちは ～北海道

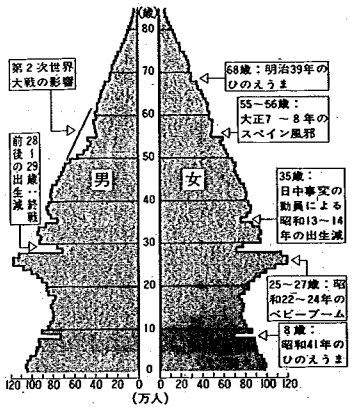
今年の10月1日には、全国いっせいに「国勢調査」が行われます。

国勢調査は、わが国の人口の実態を調べて、政治や行政の基礎資料をつくるため、大正9年以来5年ごとに行われてきた国のもっとも基本的な統計調査です。

この調査では、みなさんの世帯にふだん住んでおられるすべてのかたについて、もれなく申告していただくことになっています。

調査員は、9月24日から30日までの間に、みなさんのお宅を訪問して「国勢調査についてのお願い」「調査票」を配る手はずです。そして調査票へは、10月1日現在で記入していただくものです。ぜひ、みなさんのご協力をお願いします。

わが国の人口ピラミッド



昭和45年国勢調査結果から推計した
昭和49年10月1日現在の人口

第一回調査は大正九年

昨年のNHKドラマ「勝海舟」をご記憶でしょうか。その勝塾の塾頭として登場した杉純道（後に享二と改名）がわが国、国勢調査の親といわれています。

杉氏は、人口の実態をは握しないで政治はできないと主張して、明治二年には早くも「沼津村および原村人別調」を、さらに明治十二年には「甲斐国現在人別調」を現在の山梨県で行って人口調査の先鞭をつけ、人口センサス実現とその必要性を訴えつづけました。

しかし、いくたびか起きた国勢調査実施の気運も実現の運びとはならず、明治三十五年十二月にいたって、ようやく「国勢調査に関する法律」ができて第一回国勢調査は、明治三十八年に行うことが定められました。ところがまたもこの夢は消えさることとなりました。それは、日露の開戦でした。調査は無期延期となり、国勢調査は先人の努力にもかかわらず、明治年間には、ついにその実現をみることはできませんでした。

そして、その夢が実現したのは、大正七年のわが国初の国勢調査予算の成立でついに大正九年十月一日、第一回国勢調査が大きなウブ声とともに誕生しました。

初めての国勢調査には、文明国の仲間入りを合い言葉に国民こぞっての大変な意気込みだったといわれます。名士による講演会、新聞のはなばなしい報道、旗行列、花電車、サイレン、花火の打上げ――と、当時としては珍じいポスターの掲出などもあり、国をあげての一大事。調査員は今と違って、名誉職で、民間人が国の事業に参加できるとあって、地元の名士は、羽おりはかまで世帯を訪問。また中には、自費で国勢調査のチラシを配布した人たちもいて、さまざまな美談、逸話も残っているということです。

昭和50年 国勢調査

沖縄県の入ったシンボルマーク

この原形は、昭和45年に作成され、日本国領土のうち、行政権のおよんでいる地域が図案化されたものです。

今回の調査からは、沖縄復帰（47年）に伴い、沖縄県も南の島として入っています。

お買物、ご用命は市内で

看板■車輌文字専門
技術本位……
日本看板㈱
新津市本町1 TEL (2)―1380

MEN'S LADY'S メンズウェア スラックス!!
ダーバン レデース
いつだ MiMi
新津市本町2 ☎(4) 0648 ☎(4) 0658

国中が国勢調査で

10月1日現在で結ぶ沖縄

調査項目も順次豊富に

国勢調査は、最初、法律では十年ごとに行われることになっていました。

しかし、これでは人口変動の実態をつかむのに不十分ということで、大正十一年に法律が一部改正されて、中間年の五年目に簡易な調査を行う規定が設けられました。そして第二回国勢調査は、大正十四年に実施されました。

調査事項は簡単で、①氏名②男女の別 ③出生の年月日④配偶の関係、の四項目でした。以後、五年おきに実施されましたが、昭和五年には、従来あいまいであった産業と職業の概念が初めて区別されました。

昭和十五年は、戦時色の濃い調査で、兵役の関係や指定技能などが加わって、内容の豊富な調査事項でした。しかしその調査結果は、戦争中のため、倉庫の中で眠り、戦後になってやっと日の目をみるにいたりました。

昭和二十年に行われるはずだった国勢調査は、終戦直後のために中止されました。しかし戦後の大量の海外引揚者、国土の荒廃、食糧難など、多くの問題をかかえていたのでその対策資料を得るため、昭和二十二年に臨時国勢調査が実施されました。

昭和二十五年（一九五〇年）九月は、世界人口センサスの一環として、戦後最初の大規模センサスが行われ、世界人口センサスの仲間入りを果たすことができました。戦後の出生ブームを受けて、結婚年数や子どもの数などの出産力事項から、戦後の住宅難の実情は握のための非住宅居宅、住宅の所有関係、畳数などの項目が加えられて調査されました。

昭和三十年は、講和条約が結ばれてから初めての国勢調査で、返還された鹿児島県奄美群島でも調査が実施されました。

また三十五年には、日本で初めての大型電子計算機が統計局に導入され、人口集中地区や世帯集計に活躍しました。

基本事項だけの今回調査

今年十月一日の国勢調査は大正九年以来十二回目、沖縄県も四十七都道府県の一つとして正式に国勢調査に参加します。このため、国勢調査のシンボルマークも沖縄を表章するように改正されました。

今回の調査は、男女、年齢、職業、産業など、基本的な十六項目に限定しています。

特色としては、機械が読みとるマークを、世界で初めて世帯に直接記入してもらうことにしています。また、人口の老齢化、核家族化の進行に伴い、核家族の発展、衰退を分析する世帯集計の充実や、転換しつつある人口分布の状況を示すメッシュ統計の早期公表などが計画されています。

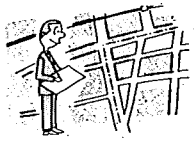
注 全国を緯度、経度により約一平方キロの地域に区画したメッシュ地域統計は四十五年から登場しました。行政区画によらない地理的区画の調査です。

なお、国勢調査は、五年に一回づつ行われるわけですが、西暦年の末尾が〇に終わる年（たとえば一九七〇年）には、年齢別、性別、配偶関係などの基本事項から、産業、職業、失業などの項目におよぶ大規模調査が行われます。

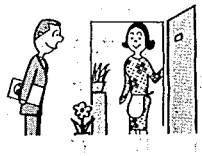
また中間の年、たとえば一九七五年の今回の調査では、原則として基本事項だけの調査が実施されます。

●調査のしくみ

全国を約67万の地域に区分して国勢調査区が設けられています。国勢調査員は、この調査区を一つずつ受け持ちます。



9月24日から30日までの間に、各世帯に「調査票」を配り、調査票の記入を依頼します。



10月1日から5日までの間に、もう一度、各世帯を訪問し、記入済みの調査票を集めます。

調査票は、市区町村→都道府県を通じて総理府統計局に集められ、直接「機械」にかけて、調査結果を集計します。

お買物、ご用命は市内で

暑中お見舞い申しあげます
― 声の便りを電話でどうぞ ―
心をつなぐ 新津電報電話局